

令和2年度 学校評価
自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立上谷小学校
実施日	令和3年2月3日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	・学校だよりやHP、メール等で保護者へ積極的に情報提供している。 ・校務分掌を越えて、全職員が協力して教育内容の重点化、指導計画の改善を図っている。 ・年度初め、保護者会時に校長が直接保護者に説明し、話している。 ・「笑顔」が多い学校となるよう指導を行っている。 ・教職員全体で教育活動に携わる意識を持ち、職員会議等を通して教育活動を推進できるよう図っている。	A	・学校だより等で学校運営、教育内容について保護者にわかりやすく発信していると感じる。 ・ホームページ、上谷の丘、校長室の窓の便りなど発行し情報提供を行っている。 ・学校内での掲示物も増えていて学校の教育向上の意欲が見て取れる。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	・「報連相」は比較的良好にできている。 ・トラブルがあると教職員が組織的に対応している。記録を取ることも継続していきたい。 ・職員研修で安全教育にも改善を図っている。防火扉の扱い等も避難訓練時に取り入れている。 ・問題等に対して職員が抱え込まず、職員全体で連携している。 ・また風通しよく共有、対応ができている。 ・校長を中心として多くの教職員が対応をしている。 ・事故、トラブルの危機管理マニュアルをもとに日々研修が行われている。	A	・継続して教職員の危機管理意識の徹底に努めてもらいたい。 ・職員室の風通しが良いように思える。組織的にただの縦割りでない報連相ができている。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(共通項目)	B	・個々の仕事量の差をできるだけ小さくしていきたい。 ・休暇を取りやすい雰囲気はあるが、ノー残業デーや計画的な休暇の取得については課題がある。業務内容の精選だけでなく個人の意識を考慮する必要がある。 ・現状は休憩時間中の会議もある。 ・毎日早い時間に帰れるよう声掛けが行われている。 ・「ノー残業デー」などを有効に活用している。 ・週休日等に仕事を行う職員もいるのも事実であるので様々な面で教育活動の見直しと意識を変えることが必要である。	B	・社会から求められていることが多く大変な現状であると思う。先生方の心に余裕ができると児童にとって良いことになるので今後も学校全体で取り組んでいきたい。 ・意識して残業を減らせるように校長、教頭、教務主任が率先して対応している。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業をしている。(市共通項目)	A	・研究授業を全教員が行うことや研修で授業改善や児童の実態把握を行っている。 ・学年を越えて教材研究ができている。 ・指導者を招聘した授業研究を行い、指導されたことを生かして授業を進めている。 ・職員全体が職員室の中で児童の実態を踏まえた教材や授業の進め方についての話が良く行われている。 ・実態→方策→実施→振り返りというサイクルで学習に取り組ませることができている。 ・ブロックごとの授業研究などでは深い教材研究が行われている。	A	・高学年など学力が向上してきている。実体験を大事にし、気づく授業ができている。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	A	・道徳科の35時間実施や教材研究、教具の用意等が充実している。 ・算数の少人数をはじめとし、個別指導の工夫がなされている。 ・いじめアンケート等で調整、対応が行われている。 ・道徳、学活等は予定通り行われている。 ・指導内容をおさえ、取り組ませることができている。 ・学習が苦手な児童に対し、保護者の理解を得ながら補習を行っている。 ・授業を通して命の大切さ、いじめ防止を児童が学び、豊かな心を育むよう努めている。 ・学校の特色を生かして体験活動を取り入れながら豊かな学びで児童の心の教育の充実を努めている。	A	・少人数である本校の特色を活かした行事、縦割り授業等工夫しながら積極的に行われている。 ・算数の少人数制、個別指導、補習等工夫されている。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。(市共通項目)	B	・進んであいさつの「進んで」という部分については児童への意識づけについて考えていきたい。 ・廊下等ですれ違うあいさつができる児童が多い。 ・昨年度に比べ学校内であいさつができる児童が増えた。あいさつ運動などの取組を継続したい。 ・学校経営が充実し、教科指導と生徒指導の両面で児童の育成が図られている。全校で集まる際にも姿勢が良く、目線等が話し手に集まる点もよい。 ・概ねできてはいるが課題になる児童もいる。 ・生活目標やあいさつ隊の活動を通して日々意識した生活ができるよう努めている。	A	・廊下ですれ違った時にきちんと立ち止まって挨拶をした姿に感心した。 ・よく挨拶のできる上谷っ子である。先生を見て児童は育つ。 ・明るく元気な先生方なので学校が明るく感じる。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のために意欲的に取り組んでいる。(市共通項目)	A	・職員間で常に気に掛けることができているので、職員室の雰囲気がとても良い。 ・校内研修を通して不祥事の根絶に努めている。 ・定期的に倫理確立委員会が開かれ、不祥事を防止するための話し合いが行われている。 ・倫理確立委員会が定期的にしっかりと行っている。 ・倫理確立委員会により、地方公務員としての自覚を認識し、教職員事故を起こさない土壌ができている。	A	・学校行事に参加する中で先生方が連携よく動いている姿に職員間の人間関係の良さを感じる。 ・職員室の雰囲気が非常に良い。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切に接している。	A	・言葉遣いについてはしっかり気を付けていかなければならない。 ・児童理解に努め子ども一人一人を認め、育んでいる。 ・個々に合わせた課題や対応等、とても丁寧な対応を行っている。 ・管理職、養護教諭と連携を取りながら個への支援に努めている。 ・児童理解に努め一人一人の児童に最適な学習が図られている。 ・安全安心な環境を作ることができている。 ・保護者への傾聴や助言を通して共通理解が図られている。	A	・すべての教職員が全校児童を把握できている。 ・温かく見守る中、きちんと悩み、相談への対応ができている。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	B	・特別支援教育への理解を深め、研修、研鑽に努めている。 ・特別な配慮が必要な児童については適切に就学支援委員会を開催し、保護者と共通理解を深め就学を進めている。 ・特別支援学級と通常学級との交流が図られている。 ・ユニバーサルデザイン等の研修が図られるとよい。	B	・配慮が必要とする児童が無理なく行事に参加する姿が見られよい環境のもとにあることが伺える。 ・各種研修がきちんと行われている。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	A	・積極的な清掃が図られている。 ・月1回の定期的な安全点検見回りで児童目線で危険箇所を把握している。 ・毎月の安全点検に加え、日直の見回り通し、危険箇所の把握、修繕を行っている。 ・児童にとって興味を引く掲示物が多く掲示してある。 ・掲示物等は充実している。鉄類などの廃棄等も行った。	A	・掲示物がいつも整備され、校内に清潔感がある。掲示物を通して言語環境を整備されている。掲示物が以前より増えており、なおかつ考える掲示物でよくできている。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。(市共通項目)	A	・ホームページの更新はよく行われている。内容を考えてもよいかもしれない。 ・ホームページやメールで情報提供がされている。 ・学校評価を適切に行い、学校の情報も公開している。 ・家庭との連携を大切に日々の教育活動を行っている。	A	・学校は積極的に地域や保護者への情報を発信していることが伺える。 ・地域への回覧板などで広報誌などを回覧し、情報公開を行っている。保護者ともよく連絡が取れている。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子ども問題解決を図っている。	A	・授業や学習について人材活用をすることが難しいことがある。 ・本年度はゲストティーチャーの活用が難しい状況にあった。 ・防犯/パトロール、PTAによる登校指導、シルバー人材など協力していただく体制がある。 ・スクールソーシャルワーカーや子育て支援課との連携や役割分担に疑問があるので調整していきたい。 ・見守り隊の方と協力して通学路の安全の見守りを行っている。 ・地域、家庭、学校で連携し教育活動を行っている。	A	・PTAによる登校指導、見守り隊の方と協力して通学路の安全な見守りができている。 ・補習も時間を取り行われている。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。(市共通項目)	B	・校内研修、職員会議を通して情報交換を行っている。 ・中学校の学校だよりを見られる機会がある。 ・放課後等職員室内で児童の情報交換などの会話が深い。 ・小中連携行事は今年度の実施は難しいことがある。キャリア教育やスタディウィークなど中学校と連携が取れているのか疑問である。 ・形としては行っているが中身としての取組はもう少しである。4校での共通認識があまりない。	B	・引き続き交流連携を深めてもらいたい。